

門真市幼保小の架け橋期カリキュラム(素案)

令和 年 月
門 真 市
門真市教育委員会

1.はじめに

近年、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しています。核家族化や共働き家庭の増加、地域のつながりの希薄化、さらにデジタル機器との接触の早期化などにより、子どもたちが多様な背景をもって集団生活に入ってくるようになりました。生活リズムが不規則であったり、他者との関わりに不安を抱えていたり、感情のコントロールが難しいといった様子も見られ、保育・教育の現場では年々支援の必要性が高まっています。

こうした状況の中で、就学前施設（保育所・認定こども園・幼稚園）と小学校の連携を強化し、子どもたちの育ちと学びを切れ目なく支えていく取り組みの重要性が増しています。文部科学省、厚生労働省、内閣府なども、5歳児から小学校1年生の2年間を「架け橋期」として位置づけ、子どもの発達の連続性を確保するよう求めています。

この考え方のもと、門真市では、就学前と就学後の教育・保育が分断されることなく、遊びを通した学びと教科を通した学びとが自然につながるよう、共通の目標と視点を持ったカリキュラムづくりを進めていきます。また、子どもに関わるすべての大人が一貫した理解のもとで協力しあえるよう、子ども理解や指導の在り方に関する共通言語を育むことも重要です。

このように、架け橋期の子どもの発達を連続的に支援し、学びと生活の基盤を地域全体で整えていくため、「門真市幼保小の架け橋期カリキュラム」を策定します。

2. 幼保小の架け橋プログラムとは

「架け橋期」とは

義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間は、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な時期

・この時期の教育については、幼稚園・保育所・認定こども園と小学校（以下「幼保小」という。）という多様な施設がそれぞれの役割を担っています。子どもの成長を切れ目なく支える観点からは、幼保小の円滑な接続をより一層意識し、乳児や幼児それぞれの特性など発達の段階を踏まえ、一人一人の多様性や0～18歳の学びの連続性に配慮しつつ、教育の内容や方法を工夫することが重要です。

・「幼保小の架け橋プログラム」は、子どもに関わる大人が立場の違いを越えて自分事として連携・協働し、この時期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で全ての子どもに学びや生活の基盤を育めるようにすることを目指すものです。本プログラムは、架け橋期に求められる教育の内容等を改めて可視化したものであり、関係者の負担軽減に留意しつつ、各地域や施設の創意工夫を生かした取組が広がり深まっていくことを期待しています。

○実施にあたり、関係者で共有し大切にしていきたい視点

・幼保小の教育のつながりを意識した活動が、子どもの豊かな体験を生み出し、主体的・対話的で深い学びの実現につながります。

・施設類型・設置者・学校種を越えて、幼保小の先生が、気軽に話し合える関係を構築し、対話を大切にするとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて協働して取り組み、発信しましょう。

・全ての先生が関わるプロセスや、組織的な体制づくりを大切に、接続 に関する取組を年間計画に位置付け、持続的・発展的な取組を目指しましょう。

・形式的な取組とならないよう、家庭や地域も一緒に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、子どもの姿 を起点に 話し合いを深めましょう。

○目指す方向性

・架け橋期のカリキュラムについては、幼保小が協働し、共通の視点を持って教育課程や指導計画等を具体化できるよう、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとし、育成を目指す資質・能力を視野に入れながら策定できるよう工夫する。そして、幼保小の先生と一緒に振り返って 評価し、改善・発展させていく。

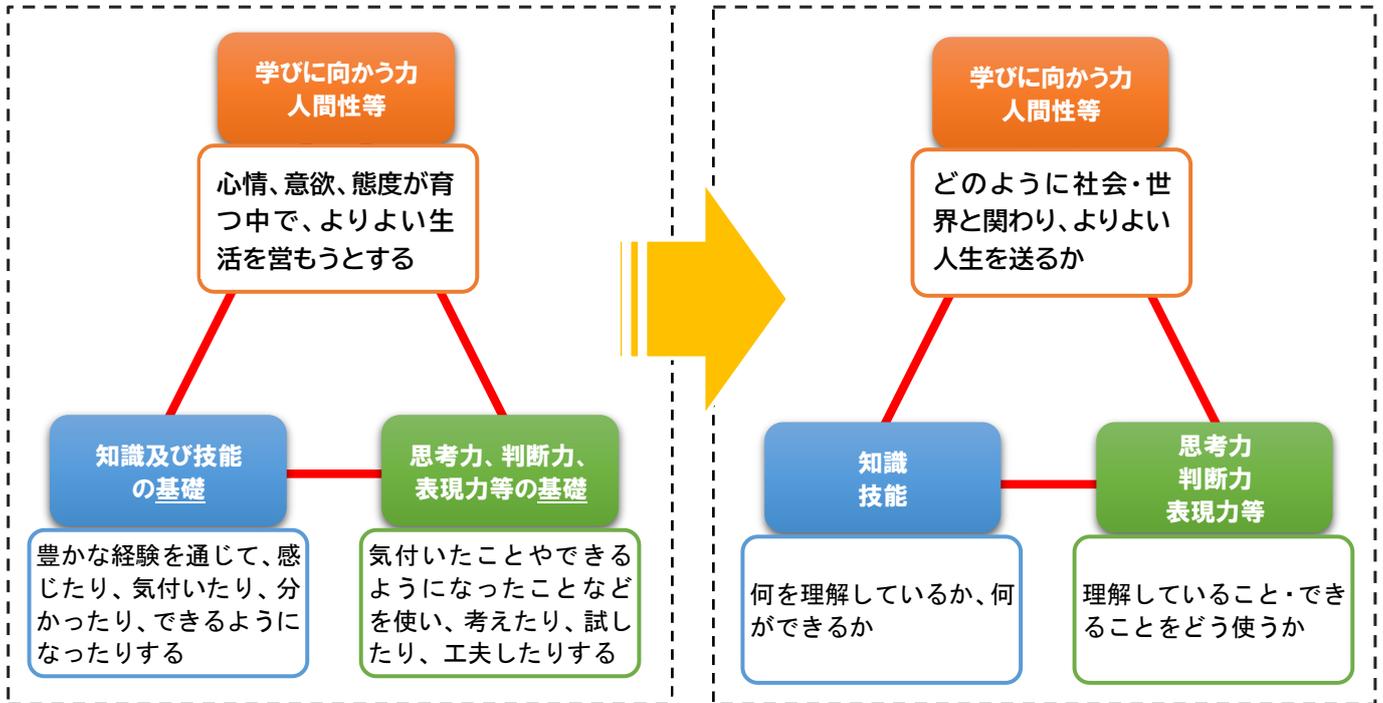
・取組全体を通じて、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、園長・校長のリーダーシップと自治体の支援の下、園と小学校の先生が、子どもの育ちを中心に据えた対話を通して相互理解・実践を深めていく。

(「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版)」文部科学省より抜粋)

3. 3つの資質・能力

〔幼稚園、保育所、認定こども園等において育みたい資質・能力〕

〔小学校・中学校教育等において育成すべき資質・能力〕



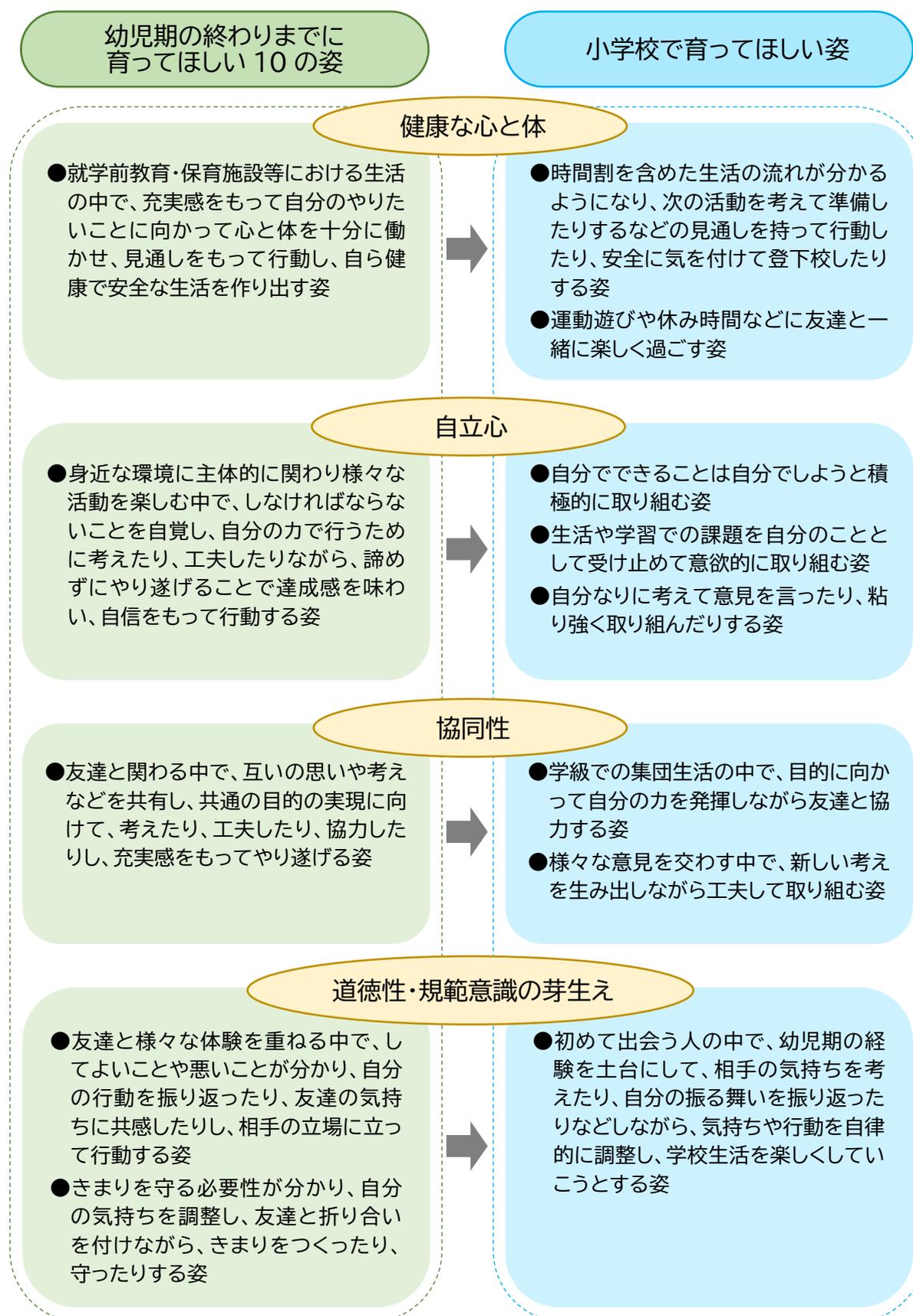
（「門真市就学前教育・保育共通カリキュラム（平成 30 年3月）」より抜粋）

※小・中学校で育成を目指す3つの資質・能力は、一見すると大人の視点のようにも捉えられますが、架け橋期においては、子どもが身近な人や出来事と関わる中で、その基礎となる力を自然に育てていく過程として捉えます。大人の価値観で評価するものではなく、学習する子どもの視点に立ち、子どもの内側に芽生える意欲や関心、気づきを大切にします。

<参考：学校教育法第 30 条第2項>

生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

4. 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」と「小学校で育ってほしい姿」の関係



幼児期の終わりまでに
育てほしい 10 の姿

小学校で育てほしい姿

社会生活との関わり

- 家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつ姿
- 就学前教育・保育施設等内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識する姿



- 相手の状況や気持ちを考えながら、いろいろな人と関わることを楽しんだり、関心のあることについての情報に気付いて積極的に取り組んだりする姿
- 地域の行事や様々な文化に触れることを楽しんで興味や関心を深め、地域への親しみや学びの場を広げていく姿

思考力の芽生え

- 身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむ姿
- 友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにする姿



- 小学校で出会う新しい環境や教科等の学習に対して興味や関心を持って主体的に関わる姿

自然との関わり・生命尊重

- 自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探求心をもって考え、言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつ姿
- 身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることが出来る姿



- 自然の事物や現象について関心を持ち、その理解を確かなものにしていく姿
- 生命あるものを大切に、生きることの素晴らしさの自覚を深める姿

幼児期の終わりまでに
育てほしい 10 の姿

小学校で育てほしい姿

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

- 遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつ姿

- 学習に関心を持って取り組み、実感を伴った理解をし、学んだことを日常生活の中で活用しようとする姿

言葉による伝え合い

- 保育教諭等や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむ姿

- 友達と互いの思いや考えを伝え、受け止めたり、認め合ったりしながら一緒に活動する姿
- 自分の伝えたい目的や相手の状況などに応じて言葉を選んで伝えようとする姿

豊かな感性と表現

- 心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつ姿

- 音楽や図工、身体等による表現の基礎を身につけ、感性を働かせ表現することを楽しむ姿
- 臆することなく自信をもって表現し、学校生活を意欲的に進める姿

(「門真市就学前教育・保育共通カリキュラム(平成 30 年3月)」より抜粋)

門真市幼保小の架け橋期カリキュラム（基本版）

3つの資質・能力		学びに向かう力、人間性等																																																			
		知識及び技能												思考力・判断力・表現力等																																							
育ってほしい10の姿		健康な心と体																																																			
		自立心				協同性				道徳性・規範意識の芽生え				社会生活との関わり																																							
時期		年少児（3歳児）～年中児（4歳児）		架け橋期												第2学年（7歳児）																																					
		年長児（5歳児）												第1学年（6歳児）																																							
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																												
育ってほしい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・色々なことに興味・関心を示し、好奇心をもって試したり工夫したり挑戦したりする ・気の合う友達と一緒に、気持ちを伝え合いながら遊ぶことを楽しむ ・保育教諭等に親しみを持ち、自分の思いを言葉で伝えようとする 		<ul style="list-style-type: none"> ・身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ ・友だちと関わる中で多様な感情体験を味わい、友だちとの関わりを深める ・絵本や物語に親しみ、豊かな言葉や表現が身についていく 												<ul style="list-style-type: none"> ・遊びや生活の中で様々なことに挑戦し、やり遂げる達成感を味わい、自信を持って行動するようになる ・友だちと共通の目的の実現に向けて、考えたり工夫したり、協力したりし、充実感を持ってやり遂げるようになる ・経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる 												<ul style="list-style-type: none"> ・自分でできることは自分でしようとする ・生活や学習での課題を自分のこととして意欲的に取り組む ・自分なりに考えて意見を言う 												<ul style="list-style-type: none"> ・学級での集団生活の中で、目的に向かって友だちと協力する ・自分の伝えたい目的や相手の状況に応じて言葉を選んで伝える ・意見を交流する中で新しい考えを生み出す ・友だちと互いの考えを伝え、受け止めたり認め合ったりしながら一緒に活動する 												<ul style="list-style-type: none"> ・相手に伝わるように工夫して話し、友だちの意見も進んで聞く ・自分にできることを考え、進んで行動できる 	
主な活動と行事		<ul style="list-style-type: none"> 体を十分に動かして遊ぶ 友達と一緒に過ごす中で、相手の思いに気づく イメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ 		<ul style="list-style-type: none"> 年長児としての自信や自覚をもって、健康で安全に過ごす 身近な事象に関わり、感覚を豊かにする 												<ul style="list-style-type: none"> 友だちと一緒に過ごす中で、喜びや仲間意識を身に付ける 友だちと一緒に様々な表現を楽しむ中で、感性を豊かにする 言葉に対する感覚を豊かにし、友だちや保育教諭と心を通わせる 												<ul style="list-style-type: none"> いちねんせいはいまはまるよ（生） わくわく学校（算） みんなにはなそう（国） なつともだち（生） えにつきをかこう（国） あきともだち（生） はっけんしたよ（国） ふゆともだち（生） ちがいをかんがえよう（国） 走・跳の運動遊び（体） なかよしいっぱいごうたんけん（生） みんなにはなそう（国） いきものとなかよし（生） はなしたいなききたいな（国） 表現リズム遊び（体） みんなのこにこ大きくせん（生） すきなきょうかをはなそう（国） 器械・器具を使っている運動遊び（体） もうすぐみんな2年生（生） 一年かんのおもいでブック（国） もうすぐ2年生（算） 												<ul style="list-style-type: none"> 2年生がはじまるよ（生） ほなしたい、ききたい、ずきなこと（国） 体づくりの運動遊び（体） まちをたんけん大はっけん（生） はたらく人に話を聞こう（国） 													
配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> ・安心して遊びに没頭できる環境を整える ・子どもの発見や驚きに共感したり、思いを代弁する 		<ul style="list-style-type: none"> ・自ら考えて行動できるように、ゆとりをもった園生活に配慮する ・一人一人の発達に応じた援助のタイミングや仕方を考える ・友だち同士で認め合ったり、考えを出し合ったり遊びが進められるように見守り、状況に応じて援助する ・子どもの話やその背後にある思いを聞き取り、友だち同士で自由に話せる環境を構成する 												<ul style="list-style-type: none"> ・生活や遊びの中で自信が持てるようにし、就学への期待につなげる 												<ul style="list-style-type: none"> ・自分でできることは自分でという意識につなげるため、係や役割を与える ・自分ごととして捉えることができるよう、自分で選んだり考えたりする機会をつくる ・自分の考えを言葉にできるような話し方の型をつくる 												<ul style="list-style-type: none"> ・目的に向かって友だちと協力することができるよう、行事等を活用し協力が生まれる機会を設定する ・様々な表現の言葉を学ぶことができるよう、表現遊びや言葉遊びの活動を取り入れる ・意見を出し合う楽しさを知ることができるよう、対話をとおしてよりよいものをつくることのできる場を設定する ・相手の考えを尊重することができるよう聞く姿勢の例を示したり、聞いた後の反応を言葉にできるようにする 												<ul style="list-style-type: none"> ・伝える、聞くことの楽しさを実感することができるような様々な形式の話し合い活動を取り入れる ・自ら必要な行動を見つけることができるよう、考えを促す問いかけをする 	
子ども		<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事への参加 ・小学校見学 ・園外散歩等で通学路を知る ・学校行事での交流 ・園見学 ・入学前の歓迎会 																																																			
連携職員		<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム話し合い ・年間計画等情報共有 ・授業参観 ・小学校見学 ・園見学 ・幼保小合同研修会 ・情報交流会（引き継ぎ） 																																																			
家庭・地域		<ul style="list-style-type: none"> ・懇談等を通じて子どもの育ちのつながりについて知る 																																																			